



東京女子医科大学看護系 VOL.21

発行年月日 2021年10月15日

編集 同窓会編集委員会

発行 東京女子医科大学看護系同窓会事務局

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1

女性生涯教育支援センター内

twmu.nursing.aa@gmail.com

# 同窓会会報



東京女子医科大学看護専門学校新校舎  
東京女子医科大学附属足立医療センター

新校舎での授業は12月1日、診療開始は2022年1月5日から開始します

まもなく引っ越し  
学校は11月15日  
病院は1月1日



女子医大120年の  
歴史を見守る  
シンボルツリー



東京女子医科大学彌生記念教育棟 医学部・看護学部合同校舎  
2020年4月より新校舎に移転し、医看融合教育が始まっています



懐かしの旧校舎も今は更地です

バーチャルキャンパスツアー《第1部：教育棟内》、《第2部：河田町》を楽しめます



マスコットの“いよちゃん”が  
内部を紹介してくれます



写真は広報室より提供

## 目次

●表紙	●同窓生の動向	4
●会長挨拶・総会報告	●2020年度特別事業報告	5
●理事長挨拶	●役員一覧・ホームページリニューアル	6
●同窓生の動向	●掲示板・編集後記	

## 会長挨拶



会員の皆様には、日頃より看護系同窓会の活動にご理解とご支援をいただき感謝いたします。新型コロナウイルス感染拡大という未曾有の事態、集中豪雨による水害が報じられる中、今年の総会も「書面総会」となりました。新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言は解除され、第5波は収束しつつあります。しかしながら、医療従事者の方々は、ほっと休む間もなく、第6波に備えて準備をされているのではないかと拝察いたします。このような状況下で、苦渋の決断ではありますが、次年度総会は、オンラインの総会を考慮しております。会長を拝命してから皆様に直接お会いすることができず、誠に残念な限りだと存じます。

さて、東京女子医科大学は、2020年12月5日に120周年を迎えられましたこと、大変感慨深く思う次第です。コロナ禍の大変な時期ではありましたが「120周年記念誌」が発刊され、本同窓会へも学校法人東京女子医科大学より寄贈していただきました。今後、さらに吉岡彌生先生の建学の精神と「至誠と愛」の理念が引き継がれた東京女子医科大学の同窓生が女性医療人として、社会に貢献することと期待をしております。

東京女子医科大学看護系同窓会

会長 武田 智子 (短大5年生、専攻科3年生)

現役校の近況報告ですが、来年1月の東医療センターの足立区江北移転に伴い、看護専門学校は12月から新規校舎にて講義開始となります。また、看護学部は、昨年完成しました彌生記念教育棟で、オンラインと対面のハイブリットの学習環境下で学んでおります。なお、学内の様子は、表紙のバーチャルツアーをご覧ください。

本会活動について、第7期目標として掲げた組織体制の基盤づくりの3本柱は (①組織の見直しに伴う会則改訂\_8期に見送る ②会員名簿管理整備\_学部・専門学校と連携をして継続 ③会務・会計・会員管理の一元管理\_一部のみの簡易業務管理とした)、残り1年を切りましたが、できる限り継続して行ってまいります。なお、次年度は役員半数が交代となります。第8期の理事・代議員の募集を掲載いたしましたので、本会活動にご協力いただける方の積極的なご連絡をお待ちしています。

最後に、今回の会報誌はコロナ禍で活動が制約される中、COVID-19に対応した同窓生役員に執筆を依頼して、東京女子医科大学病院の現場の声を掲載しております。このような状況下だからこそ、東京女子医科大学の在校生、卒業生の皆様と同窓会を通して、相互にさらなる交流を強化していかれますよう、引き続きご理解ご支援のほどお願いいたします。

### 2021年度 第21回定例会員総会決議結果報告

※総会成立条件「会則第14条2項により、総会は正会員および学生会員出席人員より成立」

**第1号から第6号議案まで、賛成多数で可決いたしました。**

詳細は以下をご参照ください。

#### 1. 発送数と投票数

	発送数	投票数	投票率	
合計	5,115	602	12%	
メール配信	学生	607	326	54%
	卒業生	487	174	36%
郵送	卒業生	4,021	102	3%

専用フォームからの登録開始。メール配信者へ締切日前日に再配信。  
前年度より2倍近くのご投票をいただきました。ご協力に感謝いたします。

#### 2. 書面票決結果 (委任状を含む)

	賛成	反対	無効
第1号議案 2020年度活動報告	602	0	0
第2号議案 ホームページ改訂	602	0	0
第3号議案 特別事業学生への支援	597	2	3
第4号議案 2021年度活動報告	600	2	0
第5号議案 2020年度決算報告	600	2	0
第6号議案 2021年度予算案	599	3	0

### 会員数報告 2021年9月1日現在

分類	学校名	登録者数 <sup>※1</sup>	連絡可能数 <sup>※2</sup>
A	1965年以前の女子医科大学看護系学校	127	68
B	附属高等専門学校→附属看護専門学校	1,064	497
C	短期大学および専攻科	2,234	1,105
D	附属第二高等看護学校→附属第二看護専門学校	1,066	449
E	看護専門学校	1,963	1,140
	卒業生	241	241
F	看護学部	1,815	1,036
	卒業生	369	369
G	大学院	147	78
	修了生	29	25
合計		9,055	5,008

※1) 延べ数 ※2) 実数 ◆特別会員 6名 ◆賛助会員 19名

### 現役校名簿調査実施結果〔看護学部〕

- ◆実施期間 2021年6月書面総会時
- ◆対象 東京女子医大看護学部1-19年生
- ◆方法 回生毎の不明者リストを同封  
不明者への連絡を依頼
- ◆結果 新規判明者(6名)住所変更者(11名)

ホームページ会員専用ページへ学部不明者リスト更新、継続公開中 <<PW [ ]>>

◆現在、看護学部にて、継続的に名簿調査中

◆来年より看護専門学校卒業生の調査を予定しておりますので、ご協力をお願いいたします。

数名の方から「紙媒体を取りやめQRコードからの投票に変更しては」とご意見が寄せられましたが、本会会員の年齢幅は、18歳から100歳までと一律にすることは難しく、今後も両方で実施いたします。

## 理事長ご挨拶

学校法人 東京女子医科大学  
理事長 岩本 絹子



東京女子医科大学看護系同窓会の皆様におかれましては平素よりご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が拡大し収束せず、皆様も各地でご苦労されていることと推察致します。一日も早い終息と皆様のご健康をお祈り申し上げます。

さて、現在、皆様の後輩である看護学部学生は、2020年2月に完成した彌生教育研究棟で医学部と看護学部の垣根なく学んでおり、共育・協働に励んでおられます。また、これまで掛川市で学んでいた看護学部1年生も河田町で先輩方から良い刺激を受けながら学ばれています。コロナ禍での休校の際も、最新のネット環境によってオンライン授業も滞りなく行うことができました。

看護専門学校は、足立区江北の新校舎も出来上がり、12月開校予定です。先日新校舎を視察しましたが、重厚感もあり広々としておりました。足立医療センターへの導線もよく、機器やネット環境も充実させ、よりよい環境で学ぶ準備が整っております。

ご存じの通り、2020年12月5日、東京女子医科大学は120周年を迎えました（また1930年に看護

学教育の礎、附属産婆看護婦養成所が開設し90周年となります）。学祖吉岡彌生先生の想いにより本学は女子のみの医学教育機関であり続け、建学の精神と至誠と愛の理念を受け継ぎ、多くの優秀な医師・看護師を世に送り出しております。そして、本年2021年は吉岡彌生先生の生誕150周年記念となる年です。彌生先生のご命日の本年5月22日、本学は12年ぶりに「学祖墓前祭」を行いました。感染防止対策を施したうえで、本学役員、職員の一部で執り行い、小川看護学部長理事も参列されました。多磨霊園の彌生先生の墓前では本学が120周年を迎えたことをご報告し、記念誌を奉納致しました。参列者全員で建学の精神と至誠と愛の理念の継承、更なる発展のためにオール女子医大で団結することをお誓いしました。昨年の創立120周年、本年の吉岡彌生先生生誕150周年を期し、看護系同窓会の皆様には今一度吉岡彌生先生に想いを馳せ、本学の更なる発展のためにご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の収束の見通しもつかない今、本学は新型コロナウイルス感染症患者・重症者受け入れ数も多く困難な状況が続いております。その中で、看護系同窓会の皆様をはじめ看護師の皆様には、本学の窮状を理解され、日頃からご尽力を賜り心より感謝申し上げます。今後もチーム医療を発揮しオール女子医大でこの局面を乗り越えてまいりたいと存じます。



東京女子医科大学120周年記念誌発刊  
(本同窓会にも法人からご寄贈いただきました)

### 会員の皆様へご協力をお願い

創立120周年記念募金 ～125周年に向けて～  
へのご寄付ご協力をお願い申し上げます。

- ❖ 本院新病棟（(仮称)第2病棟）の設備準備
  - ❖ 次世代を見据えた新しい診療システムの導入
- 詳細は東京女子医科大学ホームページにてご確認をお願いいたします。



## 同窓生の動向：限界の先にみた看護の力



### 新型コロナウイルス感染症対策におけるこれまでの経過と今後の課題

総合感染症・感染制御部

丹呉(旧姓 持原)恵理 (附属第二看護専門学校20回生)

私の所属する総合感染症・感染制御部(以下、感染制御部)は、部署の枠を超えて患者やその家族・教職員など、当院に関わる全ての人を感染から守ることを使命として活動している。そして現在は新型コロナウイルス感染症対応の中心的な役割を担っている。

未知の感染症が流行し、ウイルスの正体・病状の経過、感染経路・治療法などわからないことが多い中、当院が対応を始めたのは、日本で最初の感染者が確認された2日後の2020年1月17日であった。厚生労働省指針を基に当院の基本対応方針をまとめ、院内全体への情報周知から始まった。世界的にもそこから混乱に突入した。

本院で最初に取り掛かったことは、外来や救急外来でのトリアージであった。その後は最前線で医療や看護を提供する職員が不安にならないよう、ゾーニング、患者・医療スタッフの動線の決定、個人防護具の着脱訓練、物品管理、換気調整など、感染制御部の医師・看護師を中心に行った。

当初、電話は一日中鳴り続け、繋がらないと各部署から職員が感染制御部に押し寄せた。コロナ対応した職員が発熱し、感染制御部スタッフは濃厚接触疑いで自宅待機となり、ますます対応は困難を極めた。その間は看護部からの応援で乗り越えたが、その後、病院長号令の下、職員を総動員して“チームコロナ”が結成され、組織だった体制が整った。

当院の方針は“チームコロナ”の提案を基に、病院管理者が検討を重ねたうえ、連日のコロナ会議で最終決定をした。しかしながら、当然運用が決定しただけでは院内感染は制御できない。当初、職員が普段行っていたはずの個人防護具の着脱も、ふたを開けてみると着脱指導が必要な状況であった。殺到するニーズに間に合わなくなり、短期間に全員が技術習得できるよう、DVDを作成し対応に追われた。

混乱の渦中であったが、現在まで当院ではクラスターは起こっていない。それはすべての職員が運用マニュアルを遵守し、協働して業務を遂行したからこそである。現在も時間や場所を問わず、病院管理組織から現場の職員まで、報告・連絡・相談の電話対応に追われている。しかし、感染制御部は職員の不安に、即時対応し支援することが重要な役割と感じている。

新型コロナウイルス感染症に関与して1年8か月が経過した。未だ収束の兆しが見えず長期化していることで、疲弊し離職する人も少なくない。しかしながら、私たち看護師は様々な制限下でも、笑顔で前向きに看護を考え、継続できる強さをもつこと、できないことを見つけるよりできることを考え増やしていくことが重要であり、今後の課題ではないだろうか。

最後に、コロナ禍だからこそ得られたものは、患者を取り巻くあらゆる職種の職員を含めた「オール女子医大」の再構築であった。この関係性をさらに活かし、通常の医療体制に戻っても協働していけるのではないかと、今後の女子医大に希望を感じている。



### COVID-19 受け入れを担った看護チームを率いて感じたこと

#### — 使命感の先に垣間みた、看護師の思い —

救命ICU/救急外来

中村(旧姓 小林)邦子 (看護短期大学28回生)

2020年1月末、例年のように慌ただしい年末年始を終えた救命救急センターに、COVID-19の流行を予測させる情報が入った。その頃はまだ、武漢をはじめとする海外からの帰国者をスクリーニングしていた初期段階であった。この新興感染症を引き起こしたウイルスの正体も明らかではないまま、夜間休日診療や救急窓口である救命救急センターのICUでは、救急搬送される全ての患者の感染を疑う厳重な感染対策が開始され、COVID-19との長い長い戦いが始まった。

病院内では行政の要請でCOVID-19受け入れ病棟の立ち上げが決定し、同意が得られたスタッフを招集し、教育などの準備に追われていた。使命から、次々に入る新たな情報に対応しつつ重症陽性患者のケアを担い、背景が明確でない救急搬送患者を、何件も受け入れるという毎日に突入した。絶対に感染しないことをチームで掲げ、できる感染対策を全て講じながら、疑いを含めた陽性患者の看護を担う日々は、今まで当たり前のように、患者と家族に寄り添って命を助けてきた看護とはあまりにもかけ離れていた。“患者に接する時間は最小限に！”“家族面会は原則

禁止！”看取りの時ですえ、大切な家族と時間をともにすることも十分にできず、最期に納体袋に永眠された患者を収容し、チャックを閉める何ともやりきれない思いであった。

めまぐるしく変化する体制への対応や通常医療の維持、防護服を装着した状態での業務、感染するかもしれない恐怖、心配する自分の家族への対応など、担う役割や取り巻く環境は複雑かつ心身ともに荷が重いものであった。のしかかる多重業務の毎日に、看護を語る時間などなく、ただただ目の前のことをこなす自身の姿に、全ての看護師が限界を感じていた。

“何とか十分な休息がとれないか”“見合った手当が与えられれば良いのか”、看護管理者として安全管理や労務環境に目が行きがちな毎日であった。しかしながら、この想定外の状況に行政の政策が追いつくことはなく、双方が叶うことはなかった。そのような中で限界を感じ、現場を去る者もいた。去った者

も残る者も口にするのは、『今までできていたことができない！』『目指す看護ができない！』『どうにか感染対策を講じながら家族に対応できないか！』『家族立ち合いのもと看取りはできないのか！』『看護師としてキャリアアップしたい！』という言葉だった。たとえさらに、時間や労力のかかる内容であっても、理想の看護が実現したり、患者やご家族のニーズを満たせたりした時の充実感に勝るものはない。救命畑で育った当の私も、はじめはよく“救命の使命感で乗り越えている”と語り、支えるものは使命感なのかとばかり思っていた。しかしながら、使命感だけで乗り越えられる限界までも、超えてしまっていることに気づかされた。そして、使命感にも勝る強い思いが、看護師という職業にはあることに、たくさんの仲間から気づかされ、改めて看護師という患者の生命に関わる仕事ができる喜びを感じた。



## コロナ禍の対応で、定年退職を迎えた私ができること

看護部 看護職雇用対策

大熊(旧姓 丸米)あとよ (附属高等看護専門学校14期生)

2020年3月準夜勤帯、私は翌日から自分の手術で長期休暇取得のため残務をしていた。その時救命救急センターに、初めての新型コロナウイルス感染症疑い患者が搬送されてくると連絡が入った。救命救急センターICU（以下救命ICU）へ向かうと、すでに患者の情報から必要な検査、治療のブリーフィングを行い、対応者は最少人数とし、外回りとの連携を決め対応していた。これ以降、新型コロナウイルス感染者の増加数に伴ない、救命ICUの使い方は、その患者数によって使い分けをしていく試行錯誤の状況となった。

その当時の看護師は、出勤ごとに動きが変わっていたことや防護服のストレスに加え、患者の状態が悪くなっていくことが一番のモチベーションの低下につながったと語っていた。“救命”センターの看護師は、その字のごとく救命することに力を注いだ自負があり、元気になっていく患者をみていくことが、やりがいとなっていたのである。状態が悪化していく患者をみることは、何事にも耐えがたいことであると想像できた。この苦悩から退職を決意するスタッフも出始めていた。

私は2020年3月に定年退職をし、同年4月から再雇用として看護職雇用対策チームで仕事をしてきた。2021年1月、救命ICUへ“応援ナース”として、支援することの打診を受けた。少しでも手助けになればと思っていた矢先だったので、迷いはなく即答で快諾した。救命ICUに入ると医師から「来てくれるの

は嬉しいが、大熊がコロナに感染したら即死ですよ。」と心配していただいた。万全な感染防止対策を行い、クラスターが発生していない救命ICUで、自分も同じようにすれば感染はしない、感染リスクの心配よりも皆の手助けをしたい気持ちの方が強かった。スタッフは心配しながらも喜んでくれ、定年を過ぎた自分がこんな素敵な仲間に歓迎されたことが何よりの喜びとなった。

新型コロナウイルス感染症対応の陰圧室に入っていく防護服を付けた看護師は凛々しくもあり、私から見たら神々しくもあった。防護服を着る手助けをしながら『私の思いよ！届け！』とおまじないのようによいながら、防護服の隙間をなくすためのテープを止めると、「師長さんそんなにたくさん貼ると、剥がす時にかえって危険だからほどほどにしてください。」といわれ、笑いが出てきてしまうような、スタッフの緊張が少しほぐれていく場面もあった。

今でも新型コロナウイルス感染症の収束は見えず、対応しているスタッフには本当に頭の下がる思いである。救命ICUに配属された1年目の看護師も患者を受け持ち、しっかり成長していることを見届け、今は、看護職雇用対策チームに戻った。「就職先を決めかねている学生さんの手助けを」と思い、オンラインで病院見学や相談会で女子医大の看護の魅力を伝え、コロナ禍ならではの雇用対策活動を模索しながら仕事を続けさせていただいている。改めて、これからも生涯看護師でいたいと願っている。

COVID-19に対応している本院勤務同窓会役員の3人に執筆いただきました

2020年度特別事業報告：東京女子医科大学120周年事業へ寄付 300万円  
 COVID-19関連寄付 150万円 PC10台寄贈



左:岩本絹子理事長 右:武田智子会長



左:小川久貴子看護学部長 右:丸義朗学長

東京女子医科大学看護学部



左:小川看護学部長 右:武田会長

学生の授業や研究などの主体的学修に活用を徐々にしています！

実習はオンラインとなり、フル活用しています。オンライン学術学会でも使用予定です。学内回線が使用できるよう、準備を進めています！



Core i7, 512G

東京女子医科大学看護専門学校



左:坂本主事 中央:内潟校長 右:武田会長

看護スペシャリスト会で活用させていただきます！

研修の講義時に活躍しています。今後はリモート会議に活用します！

各種委員会や病棟会、web会議・研修の際に活用しています。web研修が増えている中、大活躍です！

本院看護部



左:三輪理事 右:白石看護部長

東医療センター看護部



左:内潟病院長 中央:木所看護部長 右:武田会長

八千代医療センター看護部



左:松村理事 右:川崎看護部長代行

中途採用 募集中

至誠と愛が受け継がれる職場でスキルを活かして働きませんか

勤務地：本院・東医療センター・八千代医療センターのうち、希望施設  
 配属部署・勤務開始日：ご希望を伺い相談します  
 採用形態：正職員



メールアドレス

※臨時職員で勤務をご希望の方もご相談ください。働き方、勤務時間を含めご相談可能です。

《申込先・問合せ先》 東京女子医科大学看護職雇用対策チーム  
 電話：03-5269-7462 メール：recruit-nurse.bm@twmu.ac.jp

第7期 (2019.7.1 ~ 2022 年度総会日) 東京女子医科大学看護系同窓会役員一覧

顧問	理事長 岩本 絹子 先生	会長	武田 智子				
	学長 丸 義朗 先生	副会長	木内みゆき	滑沢 晴美	青木 雅子	茂木 奈津	
特別会員	至誠会会長 岩本 絹子 先生	理事	藤原由紀子	柴田 典子	丹呉 恵理	廣川 友香	
	看護学部長 小川 久貴子 先生		今村めぐみ	成田美和子	石阪 香	嶋田 正子	
	看護専門学校長 内 湯 安 子 先生		小野久美子	松村 未葉	中村 邦子	古川 智美	
	東京女子医科大学病院長 田 邊 一 成 先生	監事	三輪 生子	大吉真貴子	菊地 聡子		
	東京女子医科大学東医療センター病院長 内 湯 安 子 先生	代議員	後藤 浩子	飯塚 晶子		濱田亜希子	渡邊世津子
	東京女子医科大学八千代医療センター病院長 新井田 達 雄 先生	外部監査	大井香奈美	大熊あとも	田原 昌子		
			塩崎 幸子	田中 桃子			
			税理士	佐野 典子			

(掲載は順不同)

❖❖❖ 退任役員のお知らせ ❖❖❖

日暮 久美子 (元代議員)

2021.9月末を持ちまして、一身上の都合により退任いたしました。

これまでの同窓会活動のご協力に感謝いたします。また、今後のご健康とご活躍を祈念いたします。

同窓会ホームページがリニューアルしました since2021.6.25



ホームページのセキュリティ強化を図るとともに、会員の皆様により快適にホームページを活用いただけるよう変更いたしました。

会員専用パスワード

★★★ PWは1回/年変更予定 ★★★

会員の方々には、総会・会報時にPWをお知らせいたします。ご不明な方は、お問い合わせホームより、タイトルに【パスワードの件】・氏名(現姓・旧姓)・出身学校名・生年月日必須記載のうえご連絡くださいますようお願いいたします。会員の確認が取れしだい、PWをお知らせいたします。そのため数日かかる場合もございますので、ご承知ください。

【ここが新しい!】新ホームページはこちらです <https://dousokai.site/twmu-nursing/>

会員専用ページと役員専用ページを設け、パスワード設定で情報公開の選別を行なっています。会員専用ページでは、総会や会報の詳細資料などがご覧いただけます。今後は、会員の皆様の懐かしい写真などを閲覧できる「写真館」を企画しています。役員専用ページでは、理事会の資料などを共有できるようになりました。今後も同窓会ホームページが快適にご覧いただけるよう取り組んで参ります。会員の皆さまからもホームページの運用についてご意見がございましたら、事務局までご連絡いただけますようお願いいたします。

100歳の同窓生クニさんからの同窓生へのメッセージ

同窓会会報誌 Vol.20 に掲載された、「特集 コロナ禍だからこそ出会えた和田クニさん」を読んだ甥御様より、メッセージをいただきましたので、ご報告いたします。

自分が信じたことは、どんどん進んでいきなさい!  
止まることなく、前進しなさい!!

和田クニは私の祖母の妹に当たります。私の母から和田が助産師であったことを聞いていた程度で詳しく昔の話を聞く機会があったわけではありませんでした。今回「同窓会会報」を読ませていただき、吉岡彌生先生との出会いや助産院での様子から、和田の歴史を初めて垣間見ることができました。そこに写る和田は若く今にも喋りだしそうなほどパワーを感じました。私が持つ和田へ抱く冒頭のイメージが“点”ではなく過去からの“線”となり、厚みを増したことを実感するに至りました。コロナ禍ではありますが、同窓会編集委員会の皆様との出会いと和田に関する記事を丁寧に作成いただいたことに、親類の一人として深く感謝いたします。今後の同窓会の皆様のみますますのご活躍を願うばかりです。ありがとうございました。

全文とクニさんが使用していた往診カバンや女子医大の写真など、ホームページでご覧になれます

# 掲 示 板

## □ 第8期 東京女子医科大学看護系同窓会役員募集

2022年度6月からの第8期東京女子医科大学看護系同窓会役員を募集しております。

◆募集人員 [理事] 7名, [代議員] 若干名, [監査] 若干名

同窓会の活動にご興味のある方は、ホームページ「お問い合わせ」より、ご連絡をお待ちしております。

※同窓会の会則や主な活動内容は、ホームページをご参照ください。

## □ 第22回 東京女子医科大学看護系同窓会総会 開催予定

日時：2022年6月25日(土)

※開催形式は、オンラインでの開催を予定しております。

詳細が決定しましたらホームページに掲載いたします。



## □ 2022年度 研究助成金公募について

応募開始：2月上旬～4月上旬

本人通知：5月第3週 月曜日

※応募要領は、ホームページメニュー各種助成「研究助成」をご確認ください。

❖ 今年度の募集は2021年10月4日をもって終了いたしました。

## □ ホームページへの掲載・写真など募集

母校ゆかりの懐かしい写真や思い出の品を募集しています。皆さまから寄せられた

写真や思い出の品は、会報やホームページに掲載、母校の歴史資料として大切に

保存させていただきます。懐かしい写真や思い出の品を寄贈いただける方は、

先ずはホームページ「お問い合わせ」からご連絡ください。

## □ 短大のユニホーム募集 看護短大の同窓生の皆様へお願い

当時のユニホーム（キャップ・ギンガムチェックのワンピース・エプロン・靴）

お持ちの方は、[twmu.nursing.aa@gmail.com](mailto:twmu.nursing.aa@gmail.com)までメールお待ちしております。



看護研究科募集

## □ 東京女子医科大学大学院看護学研究科募集のご案内

第2期出願期間 2021年12月21日(火)～2022年1月7日(金)まで必着

詳細はホームページにてご確認ください。



女子医看護学会



図書館利用

## □ 第18回 東京女子医科大学看護学会学術集会のご案内

日 時：2022年10月1日(土) オンライン開催予定

大会長：川崎敬子（東京女子医科大学附属八千代医療センター看護部長代行）

テーマ：患者の望みをつなげる意思決定支援 ※詳細はホームページへ。

## □ 【周知事項】東京女子医科大学図書館利用ご案内

本学教職員・学生以外の会員は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため来館利用が不可となっておりますが、**2021年5月連休明けから来館利用が可能**となりました。

学外の方の同窓会員の利用時には、**同窓会会員証**が必要です。会員証をお持ちでない方は、ホームページ「お問い合わせ」より、タイトル「会員証発行依頼」、氏名（現姓・旧姓）・生年月日・卒業学校名・卒年（ご不明な場合は不要）を記載のうえ、お申込みください。なお、ご利用の際は、図書館ホームページをご確認のうえご利用ください。

## 住所届けのお願い ❖❖メール配信希望者も登録ください❖❖

お知らせや会報など円滑にお届けできるよう、住所・メールアドレスなど変更された方は、速やかにご連絡をお願いいたします。

なお、今後、**電子化を進めていくため**、同窓会からのお知らせをmailでお受け取り可能な方は、必ず、**QRコードより申請をお願いいたします。**

（または、同窓会事務局メールアドレス宛にメールでも可能；[twmu.nursing.aa@gmail.com](mailto:twmu.nursing.aa@gmail.com)）



## 編集後記

会報誌21号をお読みいただきありがとうございます。昨年度から続く新型コロナウイルス感染症により、この一年で大きく生活が変化しました。目に見えない敵と戦うなかで、これまでの当たり前が本当に必要なものなのか立ち止まる機会ともなり、新しさを取り入れる柔軟性をもつことが必要なのだと感じています。

今回は、医療現場で働いている同窓生の方に原稿をお願いしました。常に不安と共にあるような毎日の中で、現場の皆様はたくましく日々を過ごされていたことがとても印象的でした。

今年も、同窓会の活動について、役員で話し合いながら進めてまいりました。どのような状況下でも可能な範囲で、できることを行っていきたいと思えます。

末尾になりましたが、今回ご協力いただいた皆様には、心より感謝申し上げます。

【会報担当】